

展示物名：多口瓶

制作年：平安時代

出土地：千間堂跡

展示物概要：

屋島北嶺にある千間堂跡の発掘調査で出土した多口瓶です。多口瓶は寺院や祭祀遺跡から出土することが多く、仏事などで使用された仏具と考えられています。この調査により、千間堂跡が10～12世紀の寺院跡であることが分かりました。

屋島寺の寺伝では、鑑真が都に向かう途中に来山し、北嶺に一字を建立し普賢菩薩を安置したのがはじまりと云われ、千間堂跡は屋島寺の前身と考えられています。現地では、集石遺構や礎石建物跡などの遺構がみられます。